

〔改正月令博物筌 四月〕短夜（略）中略古來長日を春とし、短夜を夏

〔古今和歌集 夏〕寛平御時きさいのみやの歌合のうた

夏の夜のふすかとしれば、郭公鳴一こゑにあくる玄の、め略中

月のおもしろかりける夜、あかつきがたによめる、

ふかやぶ

夏のははまだ宵ながらあけぬるを雲のいづこに月やどるらん

〔書言字考節用集 二時〕長夜（略）明文選註、基中不 遙昔（略）文選、夜 修夜（略）同上

〔改正月令博物筌 八月〕長夜（略）夜の至りて長きは冬なるに、永き夜を秋の季とするべし、夏の夜の餘月

べし、渡る

〔萬葉集 十一古今相聞往來歌類〕寄物陳思

念友念毛金津足檜之、山鳥尾之、永此夜乎、

或本歌曰、足日本木乃、山鳥之尾乃、四垂尾乃、長永夜乎、一鵬將宿、

〔古今和歌集 秋〕人のもとにまかれりける夜、きりくすのなきけるをき、てよめる、

藤原たふさ

菴いたくななきそ秋の夜のながき思ひは我ぞまされる

〔伊呂波字類抄 天象〕霄（略）本作ヨイ

〔書言字考節用集 二時〕宵（略）初更

〔萬葉集抄 六〕よひとは、心よくいをぬるを云也、

〔日本釋名 上時節〕宵 夜居なり、夜いまだねずして居る時を云、

〔東雅 天文〕夜（略）中 宵ヨヒといふは、ヨとは夜也、ヒとは間也、古語にヒといひしには間之の義

あり、